

持続可能な漁業制度の構築を目指して 漁業者集団 の現代的特性に関する研究

| | |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2025-01-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西村, 絵美 メールアドレス: 所属: 水産研究・教育機構 |
| URL | https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2012565 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



持続可能な漁業制度の 構築を目指して

漁業者集団の現代的特性に関する研究



水産流通経営学科
西村 絵美

研究の目的

漁業者集団は、漁場での操業トラブルや資源の乱獲を漁業者自らが集団で防止するための組織として捉えられてきました。しかし、当該集団は今日様々な役割を担っており、そのあり方は変質しています。本研究は、漁業者集団の現代的特性を実態に即して明らかにすることで、持続可能な漁業管理政策の設計と実践に貢献します。

研究の成果

現代の漁業者集団は、行政機関や試験研究機関との連携を進め、さらに流通部門との関係を強めているケースもあるなど、陸上部門、地域社会との繋がりを強める方向に変化していることが分かりました(図1. 2)。このことから、今日の漁業者集団の多面性を捉えるには、集団内の管理制度だけでなく、集団の外側との関係から捉え直す視点が必要と考えます。



図1 漁業者と地域住民が協力して行う
網の陸揚げ作業



図2 地元小学生を対象とした刺網体験学習
(三重外湾漁協和具青壮年部ホームページより)

波及効果

- ・地域漁業の持続性の確保
- ・漁村社会の維持